

沼津高架P Iプロジェクト



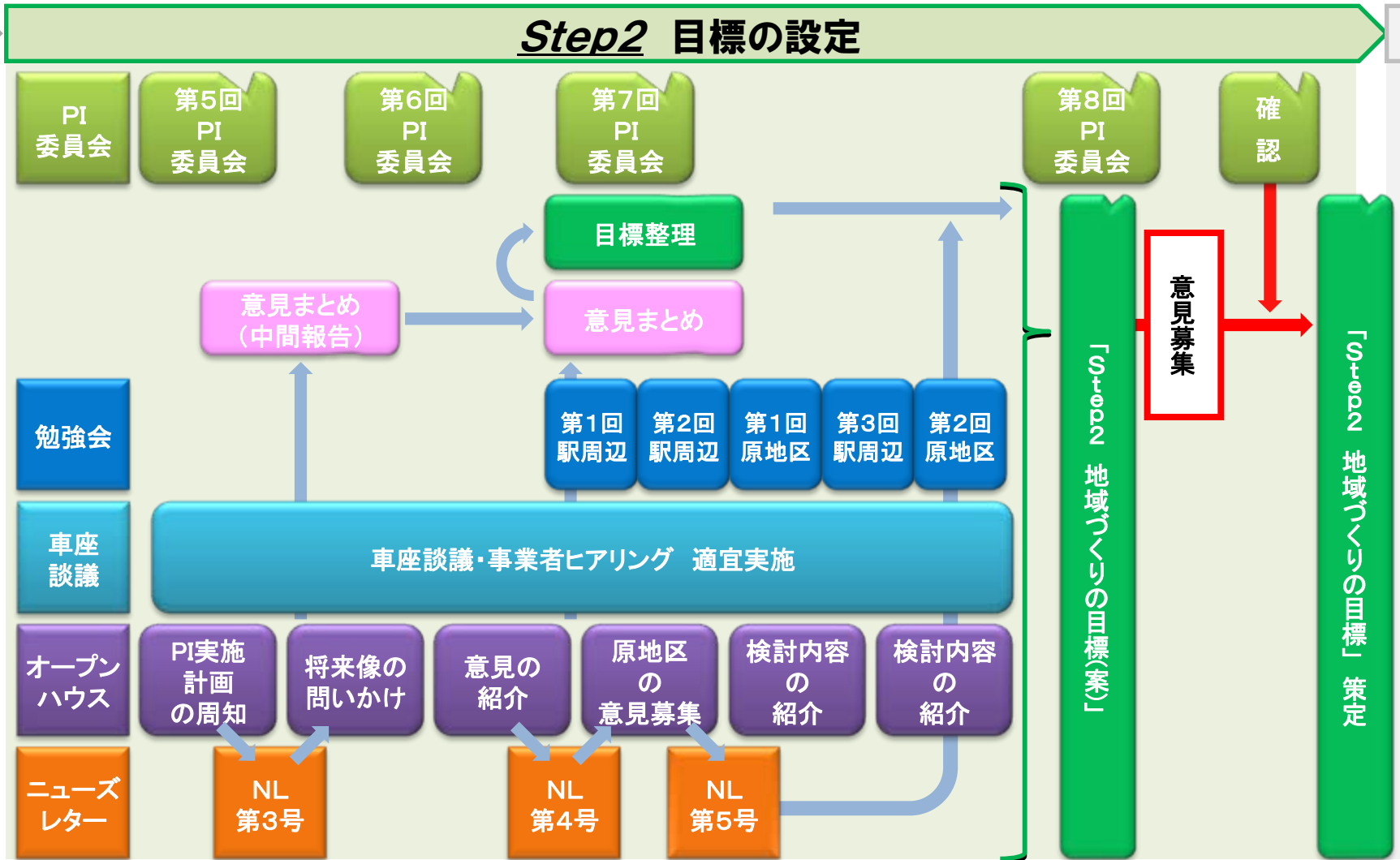
ステップ2 目標の設定について

【第9回P I委員会】

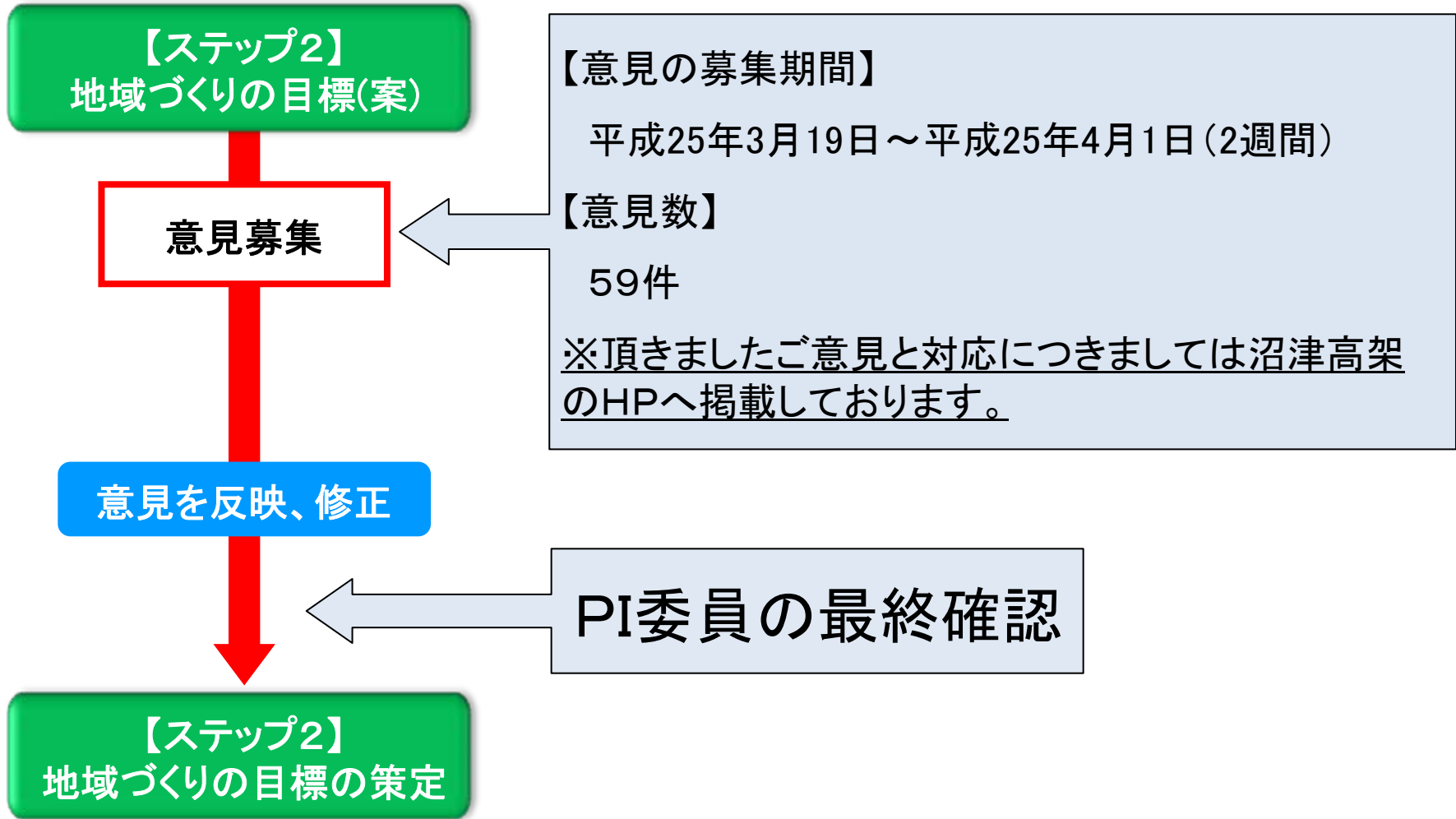
ステップ2（目標の設定）

地域づくりの目標

ステップ2 目標設定の流れ



地域づくりの目標(案)への意見募集結果



Step2_PI結果評価

ステップ2に関する評価等について

平成25年4月11日
沼津駅付近鉄道高架事業に関するPI委員会
委員長 石田 東生

沼津高架PIプロジェクトの実施状況（ステップ2）に関する評価等について

沼津駅付近鉄道高架事業に関するPI委員会は、沼津高架PIプロジェクトにおけるステップ2の実施状況について、審議並びに勉強会や車座談議の視察を通じて監視を行った。この度、「沼津高架PIプロジェクト（ステップ2）地域づくりの目標」（平成25年4月11日）が取りまとめられたことを受け、ステップ2の実施状況に関して次の通り評価・助言を行う。

評価

ステップ2は、鉄道高架や貨物駅移転に関する議論の前提として、地域づくりの目標について市民の認識を確認し、共有化を図る段階であり、これを実施する事務局としては、その趣旨をよく理解し、地域づくりの目標に関して、市民の考え方やニーズを把握することに専念し、ニュートラルな立場からそれを取りまとめる努力を行ったことは評価に値する。その際、オープンハウスや車座談議、勉強会などの双方向の議論の場を設けることで、多様なステークホルダー（利害関係者）との重層的なコミュニケーションを図ることに努め、また、取りまとめた結果を広くフィードバックすることで、広く市民的議論を展開するに尽力したことも特筆すべきである。

その結果、オープンハウスや車座談議、勉強会に参加した市民においても、鉄道高架や貨物駅移転のテーマに執着することなく、地域づくりの目標に関して多様な考え方を表明し、賛否をめぐる対立構造から脱却して、沼津駅周辺地区及び原地区の地域づくりに関する共通の目標像を見出すことができたと考えられる。

助言

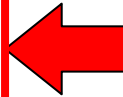
- 1) 今後の議論では、専門的な検討が必要となるので、市民に対して議論の経過を継続的に情報提供すること。その際は、女性や若年層なども含むより広範な層に多様な方法でアプローチするなど、広く関心を高めるためになお一層の努力をすること。
- 2) 議論の長期化による社会的損失を避けるため、時間管理概念を再度認識し、緻密な議論に陥らず俯瞰的な議論となるようなプロセス運営に努めること。
- 3) 今後は対立を招きやすいテーマに移行するため、地域づくりの目標に立ち返りながら、互恵的な議論となるよう努めること。

以上

〔評価〕

- ・ニュートラルな立場から地域づくりの目標に関してまとめる努力を行った。
- ・オープンハウス、車座談議、勉強会などの双方向の議論の場を設けることで重層的なコミュニケーションを図り、結果を広くフィードバックすることで広く市民的議論を展開することに尽力をした。

（抜粋）



ステップ2に関する評価等について

平成25年4月11日
沼津駅付近鉄道高架事業に関するPI委員会
委員長 石田 東生

沼津高架PIプロジェクトの実施状況（ステップ2）に関する評価等について

沼津駅付近鉄道高架事業に関するPI委員会は、沼津高架PIプロジェクトにおけるステップ2の実施状況について、審議並びに勉強会や車座談議の視察を通じて監視を行った。この度、「沼津高架PIプロジェクト（ステップ2）地域づくりの目標」（平成25年4月11日）が取りまとめられたことを受け、ステップ2の実施状況に関して次の通り評価・助言を行う。

評価

ステップ2は、鉄道高架や貨物駅移転に関する議論の前提として、地域づくりの目標について市民の認識を確認し、共有化を図る段階であり、これを実施する事務局としては、その趣旨をよく理解し、地域づくりの目標に関して、市民の考え方やニーズを把握することに専念し、ニュートラルな立場からそれを取りまとめる努力を行ったことは評価に値する。その際、オープンハウスや車座談議、勉強会などの双方向の議論の場を設けることで、多様なステークホルダー（利害関係者）との重層的なコミュニケーションを図ることに努め、また、取りまとめた結果を広くフィードバックすることで、広く市民的議論を展開するに尽力したことも特筆すべきである。

その結果、オープンハウスや車座談議、勉強会に参加した市民においても、鉄道高架や貨物駅移転のテーマに執着することなく、地域づくりの目標に関して多様な考え方を表明し、賛否をめぐる対立構造から脱却して、沼津駅周辺地区及び原地区の地域づくりに関する共通の目標像を見出すことができたと考えられる。

助言

- 1) 今後の議論では、専門的な検討が必要となるので、市民に対して議論の経過を継続的に情報提供すること。その際は、女性や若年層なども含むより広範な層に多様な方法でアプローチするなど、広く関心を高めるためになお一層の努力をすること。
- 2) 議論の長期化による社会的損失を避けるため、時間管理概念を再度認識し、緻密な議論に陥らず俯瞰的な議論となるようなプロセス運営に努めること。
- 3) 今後は対立を招きやすいテーマに移行するため、地域づくりの目標に立ち返りながら、互恵的な議論となるよう努めること。

以上

[助言]

- ・市民に対して議論の経過を継続的に情報提供すること。その際は、女性や若年層なども含むより広範な層に多様な方法でアプローチするなど、広く関心を高めるために一層努力すること。
- ・時間管理概念を再度認識し、緻密な議論に陥らず俯瞰的な議論となるようなプロセス運営に努めること
- ・地域づくりの目標に立ち返りながら、互恵的な議論となるよう努めること。

(抜粋)

